

第92回

ベトナム日通エンジニアリング

(NIPPON EXPRESS ENGINEERING (VIETNAM) CO.,LTD)



●業務内容:

・工場設備や機器の据え付け・組み立て工事
 ・各種プラントにおける重量物の据え付け工事

●住所: Land Plot CN5.6B, Dinh Vu IZ, Dong Hai 2 ward, Hai An Dist, Hai Phong City

●TEL: +84-225-883-0190

ベトナム日本通運有限会社(NIPPON EXPRESS(VIETNAM) CO.,LTD)ハノイ支店

業務内容:陸海空ワンストップサービス/クロスボーダー輸送、倉庫業務、海外・国内引越

住所: 17th Floor, Hoa Binh Int'l Towers, 106 Hoang Quoc Viet, Cau Giay Dist, Ha Noi

ベトナム北部は、ハノイ市を中心に大手日系企業の進出が盛んです。中でもハイフォン市は、ハノイ市を繋ぐ高速道路の完成、既存のハイフォン港及び、開発が進むラックフエン港などの物流インフラが整備されており、外資系企業の進出も盛んに行われています。

そのハイフォン市で、今注目されている工業団地の一つがディンブー工業団地です。ディンブー工業団地には、タイヤメーカー、大型設備製造業者、潤滑油メーカー、物流企業など多くの日系企業が進出しています。

最近では、ベトナム最大の不動産開発会社で有るVIN グループが、自動車工場を設立すると発表して注目を集めている工業団地でもあります。

今回のインタビューでは、そんなディンブー工業団地に進出したベトナム日通エンジニアリングの松本社長及び、ベトナム日本通運の滝沢ハノイ支店長、中井ハイフォンロジスティクスセンター長の御三方にお話を伺ってきました。

●進出の経緯を教えてくださいませんか？

まず、日本通運グループとしてのベトナムとの関わりをご説明させていただきます。日本通運グループとしましては、現在ベトナムに2つの法人が存在しています。一つはベトナム日本通運で、もう一つがベトナム日通エンジニアリングです。

どうして、2法人に分かれているかと申しますと、運送業の分野において一部、自社運行トラックによる道路輸送事業で、外国投資企業の投資比率に制限がありますので、陸海空ワンストップでサービスを提供するベトナム日本通運は、ベトナム企業との合弁企業として展開しております。一方のベトナム日通エンジニアリングは、業務内容として、外資の出資制限を受けない分野であったことから、外資100%で設立が可能でしたので、別法人として立ち上げることになりました。

ベトナム日本通運(以下ベトナム日通)は、今から20年以上前の1996年6月に駐在事務

所を設立しており、2000年には、需要が拡大する海上輸送、航空輸送、陸上輸送、倉庫業務へ対応する為に、ベトナム日本通運有限会社(Nippon Express (Vietnam) Co.,Ltd)をホーチミン市に設立、2002年1月にハノイ支社を設立しました。

一方のベトナム日通エンジニアリング(Nippon Express Engineering (Vietnam) Co.,Ltd)は、日系製造業のベトナム進出増加に伴う工場設備、機械の据付・組立需要に対応する為に、2014年ハイフォン市に設立しました。

この2つの現地法人が揃った事で、日本通運グループとしてお客様の機械設備などを日本から輸送するところから、工場に据え付けて稼働するまでの一貫してサポートする体制が整ったこととなります。

●業務内容について教えてくださいませんか？

日本通運グループとしての大枠の流れで申し上げますと、日系企業様がベトナムで工場を立ち上げる際に、必要な製造設備を日本からベトナムまで輸送し、更に輸送されてきた製造設備を組立、設置し、試運転確認までを承ります。その後、工場が稼働後、海外から調達される原材料の輸入から、工場で製造された完成品の輸出まで、工場周りの物流をトータルサポートさせて頂いております。

ベトナム日通エンジニアリングの具体的な業務内容としましては、日本など海外から輸送されてきた製造設備を現地で、組立て配管をつないだり、電気の配線等のセッティングを承り、試運転の実施し、工場で製造がスタートできる状況までサポートをさせて頂いております。また機械設備には、修繕、修理のメンテナンスが必要なので、これらに伴う業務にも対応させて頂いております。特に故障の場合は、工場での製造計画にも影響が出て大きな損失に繋がる可能性がある事から、作業について

はご要望の沿って、迅速に対応させて頂いております。

日系企業がベトナムへ進出する場合、日本人駐在員は、コストがかかるので当然必要最小限の人数で事業を進めたいと考えるのが普通です。また、日本側でも業務が多忙で現地に派遣できる人員にも限りがあります。そうすると製造設備の据付の為に多くの日本人を現地に派遣したり、製造設備のメンテナンスや修理の為に日本人を駐在させるといったことが難しいケースが多々あります。そう言った場合に、弊社のサービスをご活用頂くことで、少しでもお役に立てるのではないかと考えています。

ベトナム日通の業務内容は、航空輸送、海運輸送、陸上輸送、倉庫業、国内・海外引越の5つの事業をメインに活動しています。中でも、国際貿易に伴う輸送が最も大きな割合を占めていますが、その他にも、国内輸送や駐在員の海外引越、ベトナム国内転勤に伴う引越など、トータルでサポートさせて頂いています。

●ハイフォン市への進出を決めた理由は何ですか？

ハイフォン市は、ベトナム北部の物流の要の地域で、日系企業の進出も多い都市の一つです。

周辺には、ハイフォン港とカットビ国際空港があります。更に現在、整備が進められているラックフェン港が完成すると、これまでハイフォン港には入港が難しかった大型船も寄港できるようになりますので、ヨーロッパやアメリカ向けの貨物も直行便で運ぶことが出来るようになります。

また、ハノイ市とハイフォン市を繋ぐ高速道路が2015年に完成したことで、これまで3時間以上かかっていたハノイ市へのアクセスも高速道路区間の1時間プラス市内移動時間で移動することが可能となっており、ハイフォンとクアンニン省のハロン市をつなぐ道路も建設が進められています。

この様にハイフォン市は、物流拠点として非常に魅力的な条件を兼ね備えていますし、ディンブー工業団地は、日系企業の進出も多く、今後の拡張性も高いことからこの場所を選びました。

●社員について教えてくださいませんか？

ベトナム日通エンジニアリングでは、現在、北部と南部併せて約50名の社員が在職しております。うち2名が日本人、7名がフィリピン人で残りがベトナム人となっています。フィリピン人は、出稼ぎの文化があるので、アフリカ、中近東など世界中の現場で経験を積んだ優

秀な人が多く、英語も通じるので、弊社のエンジニア、スーパーバイザーとして働いてもらい、日本人とベトナム人の間を繋ぐ役割を担ってもらっています。

ベトナム人の社員ですが、操業から間もないこともあり、エンジニアと呼べるのは、まだ3名程度しか育てていません。エンジニアリングの仕事は、機械の搬入から据付、試運転まで総合的な知識を要求される業務ですので、5年くらいの業務経験を積まなければ一人前のエンジニアになるのは難しいです。

その為には、すぐに転職することなく継続して弊社で業務経験を積んでもらう必要があります。幸い、弊社の場合は、特にハイフォン本社の社員は、殆ど辞めることなく残ってくれているので、今後もこのまま継続していきたいと考えています。

優秀な人材を確保する為に、弊社ではキーマンになると判断した人材は、リーダーに登用して、その際に今後のキャリアパスを明確に伝える様にしています。例えば、3年働けば係長、その後2年たてばDeputy Manager、その後は、Managerといった形で明確に伝える事を心がけています。今年、操業から3年経ちましたので、初期に採用した優秀な人材3名が係長に昇進しました。それを見て後続の人間も自分たちの未来を創造することが出来る様になってもらいたいと考えています。

ベトナム日通では、歴史が古いこともあり、南部が約500名、北部が約400名で全体で約900名の社員が在職しており、そのうち12名が日本人駐在員となっています。ベトナム各地に30拠点を展開しており、お客様の多様なニーズに対応させて頂けるように従業員数は、ここ数年で急激に増加しています。

●中古機械の輸入規制について現状如何でしょうか？

2016年の法律の改正により、中古機械の輸入規制が厳しくなりましたので、中古製造設備に関しては、10年を超えるものは一部の例外的な場合を除いてほぼ輸入不可となりました。

また、10年未満でも中古機械であれば、日本で海事検定の検査を受けて証明書の発行を受けなければなりませんので、注意が必要です。

2000年代に進出した日系企業では、最近工場の拡張に伴う設備の増強案件が増えていますが、日本や中国から中古の機械設備を持ってくることは、非常に難しくなっていますので、投資プロジェクト申請時点のできるだけ早い段階でお客様へアドバイスを差し上げなが

ら、留意して対応を行うよう心がけております。

●ハイフォンでビジネスを行う中でお困りごとは何ですか？

ハイフォン市の場合、交通量に比べて道路インフラはまだ十分ではないと感じます。確かに、以前ならハイフォン市内からディンブー工業団地まで1時間以上要した事もあったと聞きますので、その当時に比べると大幅な改善が行われています。ただ、将来的にラックフェン港の整備などが進めば、交通量も今まで以上に増加することが予測されますので、将来に備えた道路インフラの整備が急務だと思えます。

大型トレーラー、トラックの走行時の交通安全に対する意識の低いドライバーがまだ多く見受けられます。交通安全の為に、過積載、スピード違反、走行車線違反、無理な追い越し、後ろからの煽りといった行為を無くす様に交通ルールの教育が必要だと思っています。

弊社では、日本から指導員を派遣しドライバーへの安全教育にも力を入れております。

●今後の展開について教えてください。

弊社では、2015年から2016年にかけて3か所の倉庫拠点を新設しました。最近では、付加価値の高い製品の製造を行うお客様も増えてきていますので、倉庫ビジネスに対する要望もレベルが上がってきていると感じています。

ベトナムは、今後も堅調に経済成長を続けていくものと予測していますので、日通グループとして今後も積極的に人的投資、設備投資などを進めていければと考えております。

これまでの物流ビジネスは、どちらかと言えば製造業に係るものが多かったのですが、今後一般消費者が経済的に豊かになるにつれて、B to C やC to C向けの輸配送の需要も高まると考えています。

弊社では、これからも日系企業として安全性、高品質のサービスをご提供するとともにお客様の付加価値の高い製品を高品質を保った状態のままお届けするハイクオリティな輸送サービスを提供し続けていきたいと考えています。

日通グループとして、物流に係るお客様の様々なご要望、課題を解決するお手伝いをさせて頂ければと考えていますので、物流でお困りの事がございましたら、お気軽にご相談ください。

ありがとうございました。

